

みんなの スペース

◆あて先・問い合わせ
〒028-1392 (住所不要) 山田
町役場総務課情報係(☎82-
3111内線417)へどうぞ。

やまだ文芸広場

- ・今年ほど庭木の痛み多かれし
- ・残すもの捨てるもの分け冬終る
- ・順調に老化したかと鏡見る

芳賀 誠一(豊間根・72)

大震災から 三年過ぎた春の海
ひねもすのたり 思いせつなく

大川ヒメ子(大沢・70)

花も華

世の人に安らぎもたらす花と華
山深く埋もれて咲く花もまた花
花それぞれに命あり
まことの花を生かす心
忘るることなかれ

内館 洋一(飯岡・71)

流れる空を見て、 今日生きた
空に感謝：
明日の未来の空に願いを込めて：

佐藤 啓子(船越・36)

イラストコーナー



パンプキン☆ (山田・11)



ひじき((もず@エノモト
(大浦・12)



ふもう(織笠・?)



リーちゃん(織笠・?)

イラストどんどん
送ってください♪



投稿写真



「山田湾に昇る朝日を撮りました」
山の内弁当(船越・?)

町長室から

5月14日午前7時33分、
荒川・馬鞍地区で山林火災
が発生しました▼乾燥注意
報が発せられる中、折から
の強風として急峻な地形の
ため消防署員および消防団
員の必死の消火活動にもか
かわらず火は拡大しました。
地上からの消火活動には限
界もあり、県の防災ヘリコ
プターと自衛隊のヘリコプ
ターも出動。しかし風は収
まらず日没になり、やむな
くこの日の消火活動は中止
しました▼翌朝ヘリコプ
ターからの視察で宮古市へ
の延焼も確認しました。朝
4時からの必死の消火活動
もなかなか火の勢いは収ま
りません▼夕方近くには火の
勢いが収まりかけ、風も止
んできました。夜8時ごろ
には雨が降り出しました。
この雨が幸いし、16日午前
9時半に鎮圧宣言を出すこ
とができました▼自然は禍
ももたらしますが、一方で
は幸ももたらします。我々
が自然の中にいることを改
めて思い起こさせました。

山田町長 佐藤 信逸

鯨山登山

5月10日、陸中海岸青少年の家主催の「鯨山登山」に参加しました。6、7年前、浪板海岸から始めて登った感動に、チャンスがあつたらもう一度挑戦したいと思っていました。

午前9時。さわやかな新緑の山道を、ゆつくりと頂上めざし青少年の家を出発。30人ほどの参加者が列になり、班ごとの指導員さんは、先になったり、後ろに回ったり。突き出た大きな石や、がっちり根を張った木々の足元に、〃気を付けて下さい〃の気配りに、安心して登り切ることができました。

頂上から眼前にキラキラと輝き、広がる雄大な海岸線は本当に感動でした。しかし、3年2カ月前、この水平線の彼方から襲来した大津波。無念にも犠牲になられた方々が浮かび胸が痛みました。



好天に恵まれ、午後2時半ごろ下山。全員無事故で山頂でござそうになった職員さん手作りの豚汁がとてもおいしく、心に残る楽しい鯨山登山でした。職員の皆様、大変ありがとうございました。

中垣 のり子(船越・65)

着々と進む工事

若葉薫る季節です。

大津波は、至る所に爪痕を残しました。住宅街は、安全な高台と、移転用地造成で緑の山々が一変しました。工事の音が聞こえてくると進んでいると思ひ心がほっとしています。

朝から、地区内は、町内の建設屋さん、早期復興に被災地入りしての、県外の応援車、従業員

員の皆さまには、常にありがたく思っています。また、車、人命を守って私達を誘導してくださる警備員たちや、出向し、各分野で復興にたずさわっている皆さまに感謝申し上げます。

日頃ご苦労さまです。着々と、急ピッチで進んでいることを、被災者のひとりとしてほっとしております。

満開の 桜の下に
先人の 津波記念碑
くりかえし読む
菊地 サカエ(織笠・79)



孫

昔むかし或る処に おじいさんとおばあさんがあつたとき

で始まる昔話のような、爺とお婆との生活が、今日一日を元気に生きた事に感謝しながら、楽しい夕餉に向かう。

「ばあさん」
「なあに」

「俺、お湯が欲しいんだけど」

「あるんしよ」

「熱つつべが、温るけっぺか。」

俺、ちよつと熱いのが欲しいんだけど」

「そう、今朝早くに、ポットに熱いのを入れて置いたから」

いつでも、何事についての返答もこの調子——。

意とすることは充分に介しているが、この返事、返事として正しいものと思っているのか。俺の聞いているのは熱いのか、温かいのかと尋ねておるのに、今朝早い時間にポットに注いでおいたとの話。

俺、いつポットにお湯を入れたかと尋ねて居ないのに。

全て世の中、この調子で通るものであれば、もし他人さまが来られて、熱いお湯を所望し申しでた場合、なんとご返事申し上げるであろう？

ポットのお湯の話で、談笑が続く、話の行く先は孫に及ぶ。

その孫、札幌に居る。早い物で、この3月高校受験だ。いつも言っていた。「学校へ行ってもよ、勉強なんてしなくてもいい。

い。一生懸命遊んで友達を作る。そして遊んだ分も勉強する」。

これを忠実に履行したのか、高校受験準備で、毎年行っている大浦に夏休みにどうしても行けないと連絡があった。元気で高校受験がうまく受ければと、ばあさんの心配大。「なあ、ばあさん。俺あどうにかさ、皆さま方のように、お金や財が有るでなす。有るのは借財とさ、誰にでも誇れる孫がある！ その孫に、俺も〇が有れば考えた進学の夢を孫に託す。何流でも良い、受験に受ければ」

心配しながら、ばあさんの注いでくれた訳の分かつたような、分かんないような、人情愛情ががいっぱい詰った温かいお湯がのどごしに、臓(はらわた)に染みわたる。

今夜は温かにしてよく眠れる晩だ。

山崎 卓三(大浦・?)

